

三寒四温どころか、一変して冬景色となりました。昨日、巢立ちの会に備えて、上のスロープ（ガーデンスロープと命名）に残っている雪を除雪しようと思気込んでいた場所が、冬本番並の景色となりました。冬を惜しむ、卒業を惜しむような雪となっているのでしょうか。

それでも目まぐるしい天候の変化の中でも、地面からの芽吹きが始まり、樹木の芽が膨らみ、春がやって来ています。昨年日記を見ても、同じような感じでした。

近隣の小中学校でも卒業式が行われる時期となりました。大地では、いつもの如く、年長児の卒業制作を除いては全く普段と変わりなく、同じリズムで過ごしています。巢立ちの会の練習などは全くなく、卒園の話題もなく、ずっとこの生活が延々とつづくのではないかと思う光景が続いています。

毎日、スキーウェアで登園し、寒くても冷えても、外で朝の会からわらべ歌が流れ、白い世界へカラフルなウェアが散らばっていき、ほっぺを真っ赤にした子どもたちが、笑顔でお弁当の蓋を開ける。午後の室内では、暖かな薪ストーブの部屋で、暖かい布団にくるまれて眠っている年少児達、お隣のホールでは、裂き折り、お絵かき、巨大積み木作り、ままごとの部屋遊び が変わりなく続いている。この暮らしが、1年間 変わりなく続いている。これを見ていると、本当に真に 子どもたちにとっての幸せな暮らしとは何かを、知る事ができます。誰もが、この姿を一週間ほど一緒に見る事ができれば、子育てセミナーや育児本を見る事など必要ないと思えるでしょう。そんな意味で、ママパパ保育は、一週間ほどやると素晴らしいものになるでしょう！？

昨日、高2になるOGが、突然やって来て、送辞を読む事になったので、ノンタン母さんに、良い詩がないかと相談にやって来ました。嬉しい出来事です。青ちゃんは、ただ読むだけじゃ面白くないから、箒とちりとりを持って行け、更に 工事用の黄色いヘルメットと爪楊枝も持参しろとアドバイスしました。それは面白い！やってみますと感謝してくれました。さすが、大地 OG。こんな豊かな人材を大地から飛び立って欲しいと願うこの時期です。



## 【大地ストーリー映画の監督】

他人や業者に依頼して、不具合やサービスに不足があったら、クレームをつける。しかし、自分でやって失敗したり不具合があってもクレームをつけない。例えば、壁塗りを業者に依頼して、でこぼこやムラがあったらクレームをつけるが、自分や家族でやったりしてムラがあっても、クレームをつけるどころか、家族の歴史になった、思い出になったと笑い合う。以後、見る度に あの時苦勞したね 面白かったね などと当時を思い出し、それが家族の記念、歴史、ストーリーとして刻まれていく。家族のストーリーや伝説が、映画化されていくようだ。アクシデント、予想外の出来事、失敗、・・・全てが 受け身ではなく、自分でやったこと、主体的に取り組んだことが、ストーリーになっていく事が共通点であるように思われる。そして、そこには後悔がない。たとえ失敗しても、チャレンジしないで後悔するよりも、やってみたほうが、自分のストーリーが豊かに飾られていく。

大地に来る人達は、豊かなストーリーを描こうと親という監督共々、やって来たに違いない。大地という背景に、どんな家族のストーリーを描いていくか、作っていくか・・・

四季の自然の移ろいの中でのびのびと過ごさせたい 時間枠のない中で、自分の大好きな事をやらせたい ファンタジーとメルヘンの中で過ごさせたい、テレビやゲームなどの世界から遠ざけた暮らしをさせたい オーガニックな暮らしを体験させたい などなどの思いがあったと思うが、させたい という言葉を、したい に置き換えることが大切。させたい では 冒頭にあるように、他人（大地）に依頼 下請け に出す という感じ。ここを したい に置き換えると、家族が 親が共にやりたいという 家族総出の壁塗り の姿勢になる。

大地ストーリー製作の素材は、無限である。

四季折々の美しさ。周囲に誰も住んでいない静けさ。アルプスのモルゲンロートを味わえる日の出。街灯のない暗闇。春の芽吹き。夏の雑木林のカブトやクワガタ。秋のもみじが丘の美しさ。冬の真っ白な世界。北欧の冬の針葉樹林。シベリアの冬の平原。

数多くの良質の絵本 豊かなお話 崇高な人形劇 わらべうた 誕生会 にじみ絵 裂き折り 指編み 刺繍 オペレッタ 各種の楽器演奏 民族舞踊

石窯料理 竈料理 ご飯炊き おにぎり パン ピザ 燻製（ベーコン ソーセージ） ケーキ クッキー 数え切れない創作料理は、ほとんど 電気やガスを使わずに、薪やストーブで調理 五右衛門風呂

散歩 探検 登山 長距離散歩 クロカン 田植え 除草 稲刈り 脱穀 自然農 海水浴 お父さんデイ 文庫祭 子ども祭 夕涼み会 親子雪遊び 薪作り

ののほな文庫 お話会 朝マルシェ お話勉強会 本の会 シュタイナー勉強会 映画鑑賞会 ピアノ鑑賞会 ガイヤシンフォニー ヨガ お話絵本わらべうたの会 あなけん勉強会

本当にさまざまな素材が大地にあったし、今も継続し、しかも これからも 新しいものが生まれていくだろう。そして、これらの物を取り入れ、生かし、ストーリーを作っていくのは 監督次第である と言える。大地は、ある意味、題材提供者であり、脚本家でありプロデューサーであるに過ぎない。

大地は ここに根ざして 30年を過ぎてきた中で、常に試行錯誤を繰り返してきた。最初の5年ぐらいいは、子どもが喜ばば何でも好い！！ などと子どもに媚びたりすることもやってきた。そして、シュタイナー教育の理念に出会い、真の子どもの本質を学んだ。子どもにとって、真の喜びは、幼児時代の刹那的な喜びや快楽ではなく、大人になった時、親になった時の真の喜び 幸福 に繋がる事を、幼児時代に積み重ねることだと 学んだ。0歳から7歳までの心のあり方は、35歳から43歳に反映される ということ。

だから、0歳から7歳までの暮らしのあり方考え方（テレビやゲームや電子機器や物質主義の暮らしか、メルヘンとファンタジーなどのオーガニックな暮らしか）が、親になった時にどちらが現れるか、どちらを望むか？ それは 最終的には 監督次第である。今が良ければ 今が喜ばば 今が楽なら、今がお金になれば、今が仕事に燃えれば 全て良し 何て、子育てにははっきり言って通用しない。人間が人間を育てる、それも 自分自身が幸せである自己肯定感社会に貢献できる幸せを提供できる人を育てるロマン溢れる大事業の仕事に取り組む親の労働は、何よりも大変なことだが、本当に楽しい事（幸福）は 決して楽なことではない。

限られた大地時代を過ごす監督達には、豊かな素材を吟味して、豊かな家族映画を製作して頂きたいと切に願う。